

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100934		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字沢辺字吉花102-27		
自己評価作成日	令和5年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白神山地や日本海の大自然に囲まれ、静かで落ち着く場所となっている。  
 利用者個々の生きがいや楽しみ、居宅で生活してきた生き方や馴染みの人とのつながりを継続できる環境作りへの配慮を大事に取り組んでいる。  
 地域との関係性を大事にし、透明感を持って地域や関係者に親しみやすい施設となれるように努めている。  
 職員の資格取得への助成活用や勤務調整のバックアップにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは職員個々の力量を把握しながら、内外の研修受講の機会確保に努め、職員がスキルアップできる環境整備を進めている。管理者は職員に対して「失敗をしながら育っていく」ことや「成長にはそれぞれ遅早がある」こと等を話し、職員が失敗を恐れず、お互いに切磋琢磨しながら成長できるように取り組んでいる。  
 職員は利用者が住み慣れた地域で、穏やかに安心して過ごせるよう、日々のサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの役割を捉え、理念を掲示し、目に触れて意識向上できるようにしている。また、会議等で理念を共有し、実践につなげていけるよう、話し合いを行いながら、日々取り組んでいる。	利用者が住み慣れた場所で生活し、つながりを保てるよう、ホーム独自の理念を掲げ、日々の支援に取り組んでいる。管理者及び職員は、理念に込められた意味を理解しながら、利用者へのサービス提供に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事や選挙への参加、地域資源の活用等、利用者個々のつながりが施設入所後も継続してできるよう、関係者と連携を取りながら交流に努めている。	親族や理容・美容室の訪問がある他、コロナ5類移行により、徐々にではあるが、以前のような交流ができるように取り組んでいる。また、町の防災訓練へ参加している他、選挙の時には利用者を投票場まで送り、投票の支援を行う等、地域の一員としての交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流イベント、地域の行事や交流等を通して、認知症の人への理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かせるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告や利用者・サービスの実際について報告し、話し合いを行っている。また、意見やアドバイスがあった場合も、次の会議で実践状況を報告し、今後のサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	2ヶ月に1回、集合して運営推進会議を開催しており、ホームの運営や利用者の活動状況等を報告している。また、メンバーから出された意見を適宜検討し、今後の更なるサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課担当者とは定期的に、Eメール等を活用した連絡を行っている。また、運営推進会議や地域連絡会議等を通して、役場職員と定期的に施設の実情、サービス、利用者の問題について相談を行ったり、アドバイスを受けながら取り組んでいる。	運営推進会議には、町役場の担当課職員や地域包括支援センターの職員が参加しており、情報交換を行っている。また、定期的にメールでの連絡や町の防災訓練等の情報提供がある他、生活保護受給者や成年後見制度の利用手続き等、適宜行政との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修機会を定期的を作り、全職員対象に研修を実施している。また、身体拘束をしないケアへの取り組みに向け、拘束をしなくても良い環境作りをし、軽減に努めている。	身体拘束適正化委員会を設置しており、3ヶ月1回会議を行っている。全職員対象の内部研修を行い、身体拘束の内容及び身体拘束による身体的・心理的弊害について理解を深め、身体拘束を行わない姿勢で日々の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を作り、全職員対象に研修を実施している。また、利用者の心身の状態を注意深く観察し、虐待が見過ごされることがないように、注意を払っている。また、職員のストレスや精神状態、職場内での人間関係等、虐待へとつながる不安要素への対策にも配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を実際に活用しており、権利擁護について学ぶ機会を持ち、研修への参加等もやっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に、契約等の関係書類の説明を十分に行い、理解、納得を図っている。また、その都度施設側から、不安や疑問、要望等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理窓口の説明を行い、意見や要望をもらえるようにしている。実際に文章の提出等が無い場合でも、普段のやり取りの中から改善が必要な物事は、意見書と捉えて明記し、運営推進会議での報告や事業所内への掲示等を行っている。	意見箱を玄関と共有スペースに設置し、利用者や家族が意見を出しやすいようにしている。苦情処理窓口についても重要事項説明書に記載している他、玄関にも掲示している。また、普段の会話や様子から把握した意見と思える情報については、申し送りで話題にし、会議の議案にあげて検討を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いを行い、各分野での意見や提案を聞く機会を設けている。また、代表者や管理者、職員との話し合いの中から、必要な事は反映させている。	利用者受け入れに関して、職員の他、事業所本部や医療関係者等、様々な意見を支援に反映できるよう、話し合いの場を設けている。ホームでは、職員が適宜年次休暇を取得できるようにしている他、農繁期や子どもの行事等にも配慮し、勤務シフトを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に勤務状況の把握に努め、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。また、それにより、労働時間や給与水準等、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保に努め、個々のスキルアップのための環境整備を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者との交流機会の確保を進めている。定期的に外部研修への参加等、福祉関係者との交流機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームで安心して生活を安心できるように配慮し、環境作りを行っている。また、職員にも不安事や要望が伝えられるよう、利用者の思いを引き出していけるような対応、思いを受け入れる努力をし、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合い、利用者の思いや家族からの要望、不安をしっかりと捉えて一緒に解決し、安心して利用者を預けることができるように取り組んでいる。また、常に家族とも連絡を取り、離れながらも、一緒に向き合っていると感じていただけるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の状態から、必ずしも当施設への入所を優先することなく、現状から、利用者にとってどのサービスが適しているのか、各方面の見解を提示し、本人や家族と十分に話し合い、選択できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、個々の能力に応じて洗濯や掃除、調理等を職員と一緒にやり、共同生活を共にする関係を築いている。また、個々の得意な事を活かし、活躍できる場面を配慮しており、介護される側、する側と区別なく、一人の人間として当然のようにお互い支え合っていることを感じられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心できる生活を一緒に考え、支えていると家族が感じられるよう、連絡ややり取りをこまめに行っている。また、側で見守れていると感じていただけるように配慮し、直接でなくても間接的に一緒に物事を考え、支援する機会を作っている。また、家族の思いを引き出せるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所を捉え、施設入所後も今までのような関係を継続できるように、ドライブで出かけたり、交流ができるように配慮した行事を考案している。また、施設内に馴染みの方々を招いたり、赴く等、支援に努めている。	友人や知人との電話や年賀状のやり取りを支援している他、携帯電話を持っている利用者についても、適宜通話できるように支援している。また、利用者の希望に応じて、自宅までのドライブや美容院への送迎を行う等、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格等を十分に把握し、利用者同士の関係性を意識しながら、関係の悪化を引き起こさないよう、席等の配置を考慮している。職員が間に入って意思疎通を図る等、孤立やトラブルがないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、前利用者やその家族との関係を断ち切らず、施設探しや申し込みの代行援助、葬儀への参列等、相談や援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いを引き出す努力や、暮らし方の希望や意向の把握に常に努めている。本人の思いが叶えられるよう、施設で実践可能かどうかを十分に協議し、本人の暮らしが有意義になるように努めている。	普段の利用者との会話や表情から、思いや意向を引き出すように努めている。また、利用者の意向実現に向けて、申し送りや会議において、全職員が忌憚なく意見を出し合い、検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、施設入所後もできるだけ今までと変わらない生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の心身の状態、残存能力、嗜好やその人の日課をまとめて記録に残し、携わる職員全てが把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズを分析し、今優先して取りかかる事を利用者や家族、関わる職員で話し合い、介護計画の作成に努めている。計画した目標を達成できるよう、効果や方法を常に見直し、修正しながら目標達成に努めている。	普段の申し送りがカンファレンスの機能を果たしており、担当をはじめ、職員の意見も盛り込み、利用者や家族の意見を踏まえた上で、介護計画を作成している。入院による利用者の身体状況の変化や、家族等の希望の変化時には、随時再アセスメントを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫等、利用者個々にアセスメント用紙として作成しており、日々の対応を個人記録に残し、職員が情報を共有できるようにしている。また、実践や記録を参考に、計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせたニーズに対応できるよう、利用者や家族と話し合いながら、個々に合わせた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握してそれらを活用しながら、暮らしを有意義で楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、利用者の馴染みのかかりつけ医を継続して利用したり、必要に応じて専門医への受診を相談しながら、安心して適切な医療を受けられるように支援している。	利用者がかかりつけ医を継続して受診できるようにしている他、適宜専門医の受診を支援している。状態に変化が見られる時には、家族と病院で待ち合わせる等して、ホームや医療機関、家族と情報交換や話し合いを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきを看護職員に伝え、相談しながら、利用者が適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は家族や病院関係者と情報交換や相談をしながら、安心して治療できるように努めている。また、入院時に備え、事前に相談等を行いながら、協力関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や近い将来に想定される場合は、本人や家族と話し合い、事業所のできる事を説明しながら、方針を共有している。また、当施設で対応が可能な範囲を説明し、特別養護老人ホーム等の施設等への入所が必要になった時にスムーズに対応できるよう、希望する施設の確認と申し込みを、入所の段階から行っている。	利用者の重度化や終末期の対応について、ホームのできる事の範囲を入居時に説明し、方針を明確にしている。現在は、看取り可能な医師による往診を行っていないため、対応が難しい状況だが、機会を見て、看取り介護を再開したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員を対象に、利用者の急変や事故発生時に備えて、定期的に応急手当や初期対応の訓練、研修を行い、実践力の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、年2回の消防訓練を行ったり、定期的に研修を行い、全職員が災害時の対応を向上できるように努めている。また、運営推進会議で地域への協力を相談したり、地区会長や委員を通して働きかけている。	町の防災訓練へ参加している他、利用者と一緒に夜間想定避難訓練を行っている。ホームはハザードマップ土砂災害警戒区域にあるため、運営推進会議でメンバーに災害時の協力を働きかけている。また、消火器やスプリンクラー等の設備点検は、業者に委託して定期的に行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を意識しながら、取り組みを行っている。	職員は入職時に、利用者に関する守秘義務や個人情報適切に取り扱う旨を誓約しており、その時々利用者の状況に合わせて、羞恥心やプライバシーに配慮しながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表せるような場所や人を組み合わせたり、話しやすい環境作りに努めている。また、本人の意思で物事を決めて行えるよう、声かけをしたり、方法を提示しながら、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせた生活が送れるよう、本人の思いや状態を把握している。また、相談をしながら、時間帯をずらしたり、個別の時間を作る等して、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の身だしなみ等を把握し、本人の希望や要望を取り入れながら、衣服や整容を進めている。また、パーマの利用や行きつけの美容院への対応も、個々に合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の残存能力を活かし、調理や下拵え、盛り付け、配膳、後片付けを一緒に行えるよう、工夫をしている。また、定期的に外食や弁当等で好きな食べ物を選んでいただき、食事を楽しめるように取り組んでいる。	利用者の嚥下状態や好き嫌い、禁忌物に配慮しながら、職員が献立を作成し、調理している。また、手作りの誕生日ケーキやお正月に刺身を提供したり、お寿司を食べる機会を設ける等、食事が利用者の日々の楽しみとなるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の体調面や栄養状態、習慣の把握に努め、一人ひとりの食事量や水分量、食事形態を個々に配慮している。また、栄養面で不足があった場合は、主治医と相談しながら栄養補助食を取り入れたり、回数を変えながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の能力に応じた口腔ケアを行い、口の中の汚れや臭い、食欲低下の予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつの使用を減らすよう、排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を目指しながら、排泄の自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表に排泄状況を記録し、把握した排泄パターンに応じた事前誘導を行っている。また、利用者に応じた適切な排泄用品の使用について随時話し合い、見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解できるよう、研修や勉強会を行っている。また、下剤ばかりに頼らなくてもいいように、利用者個々の食事形態に配慮している他、腸内環境の改善となる飲食物を取り入れる等し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴の基本的な曜日や時間はあっても、それ以外の日でも本人に伺い、要望があれば応えるよう、支援に努めている。	希望があれば、毎日でも入浴できるように支援している。基本的に1対1での入浴介助をしており、車椅子利用者については2名で介助する等、利用者の身体的負担感や安全面に配慮して、入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣やその時々体調に応じて、自ら休息をとったり、気軽に休息できるような声かけに配慮し、安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の現病歴を把握し、薬の目的や副作用、用法や用量について職員間で申し送りを行っている。また、処方箋や個人記録を確認して常に共有し、症状の変化や対応方法の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や楽しみ、嗜好品を理解し、普段の生活に楽しみを取り入れるように話し合い、外出や外食、趣味活動を個別に作り、実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望を引き出し、仏様のお供えやおやつ、購入、馴染みの方への訪問、個人でのゴルフ場への楽しみ等、個々の支援に努めている。また、家族等の協力も得ながら、本人が気軽に出かけられるように努めている。	天気の良い日はホーム周辺を散歩する等、利用者の楽しみや気分転換につながるよう支援している。利用者の負担とならないよう、ドライブの移動時間は1～2時間程度とする等、配慮をしている。また、お盆や正月等に外食ができるよう、家族の協力も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金を本人が持つことの大切さを理解しており、利用者の能力や本人の状況を踏まえて、本人や家族と話し合い、お金を所持し、定期的に使用と入金を援助しながら、安心感を持って生活できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族、友人等との関わりを今までと変わりなく継続できるよう、本人の要望に合わせ、電話や手紙のやり取りを本人のペースで行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の性格や状態に合わせ、ソファの位置取りや遮光の配慮を行ったり、シルバーカーの置く場所を確保する等、気兼ねなく過ごせるような配慮を行っている。	ホームは床暖房で、加湿器や感染症予防の機器も設置している。リビングの大きな窓からは畑や海を眺めることができ、日差しが強い時は遮光している。また、テーブルや椅子、ソファ等を配置し、利用者が思い思いにゆったりと寛げる環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々利用者に合わせ、ソファの配置を工夫して行き、利用者一人ひとりが気楽に過ごせる居場所作りを行っている。また、気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、普段使い慣れた物や好みの物を持ち込み、施設入所後も以前と変わらない生活に近づけられるように配慮している。	居室には利用者の愛用品等の持ち込みがある他、一人ひとりの生活習慣や身体状況に合わせ、ベッドやポータブルトイレを設置する等、安心して過ごせる居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事やトイレ、洗濯、入浴、掃除等、一人ひとりができる事を活かせる環境作りや工夫をし、できる範囲で自立した生活が送れるように努めている。		